

1 単元名 球技（ベースボール型 ソフトボール）

2 目 標

- 基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備によって攻防を展開することができる。 (運動の技能)
- 球技に積極的に取り組むとともに，フェアプレイを守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすること，自己の責任を果たそうとすること，作戦などについて話し合いに参加しようとするなどや，健康・安全に気を配ることができる。 (運動への関心・意欲・態度)
- 球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，関連して高まる体力などを理解することができる。 (運動についての知識・理解)
- 課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。 (運動についての思考・判断)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は，中学校学習指導要領解説保健体育編（平成20年9月）の体育分野の第1学年及び第2学年の内容E（3）「ベースボール型では，基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開すること。」と述べられている。このことから，基礎ドリルやタスクゲームからメインゲームへ発展させた内容にすることで，技能の向上や，活動のなかでの自己有用観や共感的人間関係を高めることができると考える。

また，上記の活動を通じて，第3学年のベースボール型の単元のねらいである，「安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作，連携した守備によって攻防を展開すること。」へつなげる内容である。

(2) 生徒の実態

実態調査 (2年*組 男子*名 女子*名 計*名 平成*年*月*日実施)

1	グローブをはめてキャッチボールをしたことがありますか？ はい *人 いいえ *人
2	バットを使ってバッティングをしたことがありますか？ はい *人 いいえ *人
3	ソフトボールに必要な技能は何だと思いますか？ ・ボールを投げる ・ボールを打つ ・ボールを捕る ・洞察力 ・わからない など

実態調査の結果から，これまでにグローブを使ってキャッチボールを行ったり，バットでボールを打ったりしたことのある生徒が*人いることが分かった。その中でどちらも経験している生徒が*人いる。この生徒においては，ボールを「投げる」，「捕る」，「打つ」ことに関して，おおむね技能が身に付いていると考える。

また，ソフトボールにおける必要な技能については，経験の有無が大きく左右していると推測できる。

(3) 指導観

指導にあたっては，実態調査においてキャッチボールやバッティングの経験に差があることから，試合の経験がほとんどない生徒が多いことを意識し，指導を行っていく。チーム編成では，経験者と未経験者，体力差などを考慮する。

また，ソフトボールの技能の向上を図るため，キャッチボールやバッティングなどの基礎技能の習得やドリルゲームを取り入れる。これらのことから技能の定着を図ることが重要と考える。ゲームでは，ルールを簡易化したタスクゲームなどを行い，ソフトボール本来の楽しさを味わうことができるようにしていきたい。

さらに，生徒が自己有用感を得ることができたり，共感的人間関係の構築ができたりできるよう，「作戦ボード」や，チームの課題や成績などを記録する「チームノート」を取り入れていきたいと考える。

4 単元の評価基準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
学習活動に即した評価基準	①球技の学習に◎ <u>自主的に</u> 取り組もうとしている。 ②◎ <u>常に互いに</u> 助け合い教えあおうとしている。 ③作戦などの話し合いについて◎ <u>積極的に</u> 貢献しようとしている。	①自己のチームや相手のチームの特徴を◎ <u>的確に</u> 踏まえた戦い方をしている。 ②仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法について◎ <u>具体的に</u> 指摘している。	①スムーズなバット操作で力強い打球を◎ <u>安定して</u> 打つことができる。 ②打球や送球に備えて捕球しやすい位置に◎ <u>安定して</u> 動くことができる。 ③打球に応じたグラブ操作でボールを捕球し、ねらった方向にボールを◎ <u>安定して</u> 投げることができる。 ④◎ <u>積極的な</u> 走塁で先の塁をねらうことができる。	①技術の名称や行い方について学習した具体例を◎ <u>多く</u> 挙げている。 ②運動観察の方法について、◎ <u>具体的に</u> 理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ③ソフトボールに関連した体力の高め方について、学習した具体例を◎ <u>多く</u> 挙げている。

◎は十分満足できる状況

5 指導と評価計画 (12 時間扱い) ○は本時

段階	時間	学習のねらいと活動	評価計画			
			関意態	思判	技能	知理
はじめ	1	ソフトボールの特性や、授業の進め方を理解しよう。 オリエンテーション 1 学習におけるルールやマナーの確認 2 学習カードの使い方 3 チーム編成	①			①
なか①	2 ・ 3 ・ 4	ソフトボールにおける基礎技能を習得しよう。 1 キャッチボール (二人組, 3対3) 2 ノック (三人一組, 10本交代) 3 バッティング (3球×3セット)	①		③	
				②	②	
					①	②
なか②	5 ・ ⑥ ・ 7	アウトを取る技能を身に付け、ポジションや役割に応じた動きを習得しよう。 1 ドリルゲーム (三人一組, 3分間ローテーション) 2 タスクゲーム (5対5, 満塁でのゲーム)	②		②	
			②		③	
				②		②
なか③	8 ・ 9 ・ 10	相手に応じて作戦をたて、状況に応じた判断で進塁を阻止しよう。 1 ドリルゲーム 2 メインゲームに向けてのチーム練習 3 メインゲーム		②	④	
			③		③	
			③		①	

まとめ	11	チームで作戦をたて、ゲームを楽しもう。	①		③	
	12	1 チームにおける課題練習 2 リーグ戦		①	④	
	13		③			③

6 本時の学習（6／12時間）

(1) 本時の目標

- 打球に応じたグラブ操作でボールを捕球し、ねらった方向にボールを投げることができる。
(運動の技能)
- 互いに助け合い教え合おうとしている。
(運動への関心・意欲・態度)

(2) 準備・資料

グローブ、ボール、バット、ベース、ストップウォッチ、

(3) 展開 ☆十分満足できる生徒への援助 ★努力を要する生徒への援助 □評価

	学習内容・活動	指導上の留意点・評価
はじめ	1 整列・健康観察を行う。 2 本時のねらいを確認する。	・素早くチームごとに整列し、健康観察をする。
	アウトを取る技能を身に付け、ポジションや役割に応じた動きを習得しよう。	
7分	3 準備運動を行う。 ・ランニング、体操、補強運動を行う。	・チームごとに協力し、リーダーを中心に準備運動をするように助言する。
なか	4 キャッチボールを行う。 ・二人一組をつくりキャッチボールをする。 ・10m間隔をとりスナップスローをする。 ※1分間で捕球→投げる→捕球→投げるが何回できたかを数える。 5 ドリルゲーム（ローテーショントスバッティング）を行う。 〈ルール〉 ・チームで3人一組をつくり、3分間でローテーション ・打者はトスされたボールを打つ。 ・守備者は、捕球後に素早くトスをあげる人へ返球する。 ※3分間で、トス→打つ→捕球→送球→捕球→トスを何回繰り返すことができるかを競う。	☆ボールを投げるだけでなく、足を運ぶ位置を意識しながら、素早くステップするようにする。 ★送球が定まらない生徒には、ボールの握り返しを正確に行い、相手の胸をよく見て投げるようにする。 ・バットコントロールを行い、バットの芯でとらえることを意識するように助言する。 ・打者へのトスは打ちやすいものをあげ、トスバッティングで守備者のいないところへ打つことで守備力が向上することを伝える。
38分	6 タスクゲーム（満塁ゲーム）を行う。 ・5対5で攻守に分かれ、攻撃は無死満塁からスタートする。その後、アウトカウントを増やしていく。3アウト交代で攻守交替とする。 ・打たれたボールは走者にタッチか、捕球した位置から近い塁でアウトにする。 ・走者は、アウトになるまで走る。走者が本塁に戻った人数を得点とする。	・打球の飛んだ場所からどの塁が近いかを確認し、状況判断した指示ができるように促す。 □打球に応じたグラブ操作でボールを捕球し、ねらった方向にボールを投げることができる。 (運動の技能) □互いに助け合おうとしている。 (運動についての関心・意欲・態度)

ま と め 5 分	7 後片付け・整理運動を行う。 8 本時のまとめを行う。 ・反省を学習カードに記入し、本時の学習の振り返りを行う。 ・次回の学習について確認する。	・運動で使った部位の筋肉を十分にほぐすように助言する。 ・個人の振り返りだけでなく、グループからも課題が見いだせるようにする。 ・学習の反省から、次回の課題を見付けられるようにする。 ・生徒の頑張りを認め、良かったところを称賛する。
---------------------------	--	---